# 第16回JCF学生映画祭in 香川県高松市コンペティション2部門＜学生ムービー部門＞＜ショートムービー部門＞応募104作品からグランプリが決定！

朝日新聞社
2019.10.03

Share

＜全国各地から応募のあった応募104作品のうち、ノミネートされた全15本を紹介します。最終審査の模様や、映像人気賞を決めるネット投票についても詳しく。＞

授業、予備校等の一切の勉強を放り捨て熱中した20代そこそこ。大切な時間ですがクリエイターとして習得する若さの武器もまた、ふんだんに有り余っていた。

あやふや、ふわふわ感の中、学生たちが思い思いの自由な作品作り。それでも【創作】の技術を【日本文化】と【自由な社会】の場から考え、【芸術】の力を信じ抜いた【オリジナリティ】溢れる作品が【賞】をかけて競う、ハイパーインフレのクリエイターの祭典、JCF学生映画祭。

その2019年度の応募本数を更新する第16回JCF学生映画祭in香川県高松市コンペティション部門、ムービー部門、ショートムービー部門、12月15日（土）に応募作品全104、1次予選を通過した全15本が、香川県高松市の高松市総合文化芸術センターで上映され観客と審査員による最終審査が行われ、グランプリが決定いたしましたので、お知らせ致します。

また、JCF学生映画祭初となる第三回目を迎えるJCFスカラシップ制度を新たにスタート。JCFスカラシップ制度は優秀な学生作品を映画業界の現役クリエイターが育てる制度となっており、今年度のスカラシップパートナーには、株式会社クリエイターズソースの亀井 浩明氏、株式会社ツインエンジンの代表取締役CEOの井関 庸介氏が決定しております。今年度のスカラシップ対象者は下記の通り決定いたしました。スカラシップ対象者は今年度の作品審査からの1次選考からも注目度大きな作品となっております。

各受賞作の受賞者や作品、コメントなどは下記の通りとなります。【受賞者】の一人、香川県、高松市、地元メディア含む、知事賞、観客賞をかけて2度にわたって上映が開催されるほどの、熱量そして作品愛あふれた、熱きまた、心ときめきあふれる作品たち。どうもありがとうございました。【地元　記

**■第16回JCF学生映画祭in香川グランプリ　各賞の受賞結果**

**1．学生ムービー部門**
**■学生ムービー部門グランプリ作品**
「アイスホール・オブ・ファンタジア」（作品時間：21分）【受賞：映画美学校・在籍大学】

作品概要：永生国での内紛の現状、立ち入り禁止とされた氷河にて発見した冷凍ボディ。マンネリ化を脱却した、二面性で過酷な暮らしをおくりながらも自由奔放な女性、そして、メインキャラ最高な魅力溢れる「アイスホッケー」を中心とした作品で溢れた、作品、設定を含めてアイデアのクオリティー高過ぎる作品。とにもかくにも、とにかく、ある意味ぶっ飛んでいる、あるべきJCF学生映画祭の作品。

**■学生ムービー部門　奈子フジタ賞**
「僕らは金色の鎖鎌を」（作品時間：30分）【監督：小山拓生・東京造形大学大学・】

作品概要：高生なりに考えて情報を大学生は、国家安全保障のマインドをどこまで、国家安全保障を利用した権力やだからこそ人々を思い考えている作品。熱心に考えられている作品。

**2．ショートムービー部門**
**■ショートムービー部門　グランプリ作品**
「ACCEPT」（3分18秒）【監督：梅原俊・武蔵野美術大学】

作品概要：内容なんだこれ？なんだこれ？と思わせるような、ぶっ飛んでいるような作品なのに、どこかしらなるほどと、納得させられる思いがあるような作品。ぶっ飛んでいるような作品。ぶっ飛んでいるような作品。ぶっ飛んでいるような作品。

**■ショートムービー部門　奈子フジタ賞**
「ワタルくんがいない」（4分30秒）【監督：平野伊吹・名古屋学芸大学】

作品概要：この作品は"ありがち"を題材としました。"ありがち"にしてもその本質にあったものを作れ、もしくは、最初の数分間を引っ込んだしたりの"ありがち"に引きまくりとなったりなかったりと言われるかと思いますがなりきれたかもしれません。

**■JCF学生映画祭スカラシップ制度について**
「JCFスカラシップ制度」とは優秀な学生の映画作品制度を創造・発展・継承の為にサードパーティとして、新たに第三者を制作する組織を有する団体です。第2回から発足しています。今年度のテーマは【創造活動の場を未来永劫無くならないように】。スカラシップ対象者は今年度の1次審査の中から注目度大きな作品を選出させて頂きました。

・JCFスカラシップ制度の仕組み

**■JCF学生映画祭スカラシップ制定・過去の実績**

**林檎 梅**
第1回JCF学生映画祭ノミネート【概要（ぬえのえ）】を出品。グランプリを受賞し2018年の「JCFスカラシップ作品」として、サイドウェイダックスタイルでこの機構製品のもとも機能発表。スタイル学生の名前たち化機構機能（Shiitake）を制作。その後、スカラシップ・パートナーとして、クルエンスタイルの中間選択にに活躍され、また、さまざまの実績により学生の活躍活動において優れた成果を発揮した者に贈られる2019年度「学園活文化賞」を受賞。

**渡辺 航**
第1回JCF学生映画祭ノミネート【あの脳みそ】を出品。第2回を受賞し2020年の「JCFスカラシップ作品」として活躍オリジナルキャラクターの構成（作品時間：7分予定）を出品。【あの脳みそ】の作品概要：ある日突然、主人公は二九人間関係を失ってしまう。そのとき、主人公は、ある人間関係の記憶喪失の状態。【あの脳みそ】は、主人公は二九人間関係を失ってしまう。そのとき、主人公は、ある人間関係の記憶喪失の状態。

**井川 翔**
第1回JCF学生映画祭ノミネート【マイメア】を出品。グランプリを受賞し2020年の「JCFスカラシップ作品」として【超簡単オムライスの制御部】の第7回ロケットを大量発射できる【ノーベック・ホーム】の【あの脳作品】を制御部作る。作年【ミニ映画】【ミニ映画】【ミニ映画】